

## 村政懇談会

# 顔のみえるむらびつら

7月に村政懇談会を行政区ごとで開催し、合併しないで自立の道を進んできた5年間の検証を村民の皆さんと村とで行いました。懇談会では、大楽村長が現在までの村づくりについて説明し、芳賀企画調整課長から第3次新興計画に基づく、これまでの事業や状況を報告しました。

各地区で出された主な質問や意見を一部紹介します。



**A** たい肥センターは二十一年度、二十三年度に整備し、牛ふんと落ち葉などを利用したたい肥を作る計画です。一年に二千トン製造予定で、ダンブに積み込んで、ほ場に運搬し、自走式の機械で散布することや袋詰めをして販売することを考えています。

**Q** 国道二八九号の整備状況について、どのような計画があるか。

**A** 事業要望の際に渡瀬深沢地内の整備を第一にお願いしていますが、国の事業なので思い通りのにならないのが現状です。現在の国道二八九号の計画では二十

**Q** 高齢化が進み、今後、年金生活者が増えていく。土地がらもあると思うが交際費が家計を圧迫している。お見舞い返しや新盆などの見直しをしようか。

**A** 不況の影響で家計のやりくりが大変厳しくなっています。さらに、年金だけで生活している高齢者世帯の暮らしはより厳しいものになっており、冠婚葬祭の簡素化は切実な要望だと思います。ただ、村が先導して行う事は厳しいと思いますので、区長会にお願いし、区民の方々と話し合っていたら、要望が実現できるような働きかけをしたいと思います。

**Q** 人口維持のためにどのような対策をとっているか。

**A** この五年間は鮫川村の魅力をつくることに力を入れてきました。これからは、有機の里づくりを進め、「鮫川村そのもののブランド化」を図り、村民が自信と誇りを持って暮らすことができる村にしたいと考えます。

また、子育てしやすい環境を整え、後継者が住みたいと思う村づくりに取り組んでいます。

**Q** 携帯電話の今後の整備状況についてどうなっているか。

**A** 二十一年度、村で整備するのは戸草地区です。その他国の補正予算の事業で要望しているのが、遠ヶ竜、大石草、田尻、福原の四か所です。NTTドコモが自主整備で行う場所は、水口、馬生田、大平、岡田、彦次郎、青生野(赤小名)の六か所と聞いています。今後も不通話地域を解消するため、要望をしていきたいと考えます。

**Q** 農道や側溝の整備をする場合、U字溝やコンクリートなどの支給はあるのか。

**A** 国・県道、村道などの工事で不要となった、砂利やU字溝、ヒューム管などを県から譲り受け、資材置き場に保管しています。農道や水路を整備する場合、村から原材料を支給して地域の方々に整備をしていただけるような制度を検討しています。

くりを進めていきます。

**Q** 商店街の活性化について、お聞きしたい。

**A** 村中心部の空洞化など、村内の商業は大変厳しい状況にあり、その打開策の一つとして、「館山公園」の整備を実施しています。地域に人をひきつける魅力がなければお客様は来ないからです。

また、商店街に元気を取り戻すためには、商工業者の方々の自助努力も大切だと思いますので、商工業者の組織である商工会が中心となって活性化策をまとめていただき、それを村がバックアップしていきたいと考えます。

**Q** さぎり荘は、今後どのような計画があるか。

**A** 現在ブランドデザインを製作中で、改修ではなく、建て替えを計画しています。来年度中には完成させたいと考えています。

**Q** たい肥センターの建設はいつ頃か。また、たい肥の販売はどのような方法で行うのか。

**A** たい肥センターの建設はいつ頃か。また、たい肥の販売はどのような方法で行うのか。

**Q** 中山間直接支払制度の継続はあるのか。

**A** 中山間直接支払制度の第二期対策が平成二十一年度で終了します。第三期対策については、大楽村長が農林水産省の検討委員として討論しているところです。各委員からは継続すべきとの意見が出ています。

**Q** 光ファイバー網の整備計画はどのような状況か。

**A** 現在、国の補助金による整備を要望しているところです。

**Q** 今後の村政の展望について伺いたい。

**A** これからは世界中で食料、環境、エネルギーが重大問題になると思います。里山の豊かな環境が、安全な農産物を生産し、CO2を削減します。また地産地消を推進することはエネルギーの消費を抑えることにもなります。有機農業の振興が村政発展につながるものと考えます。